

平成28年度 指導方法等の改善計画について〔国語〕

廿日市市立四季が丘中学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 一文の意味を変えずに二文に分ける問題で、「できました」に対する適切な主語を補って二文目がかけていない。(18.5%)
- 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く。(16.2%)

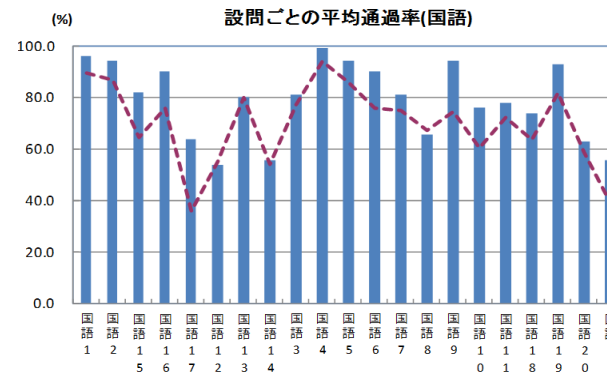
【取り組んだ事項】

- 文学的文章を中心に、主語が省略されている文に着目させ、主語を補いながら書き直す学習を繰り返すことにより定着を図った。
- 筆者の考えに対する自分の考えを書かせる際、資料集や本文に関連した書籍から複数の資料を提示しながら根拠を明確にした文章を書かせることにより定着を図った。

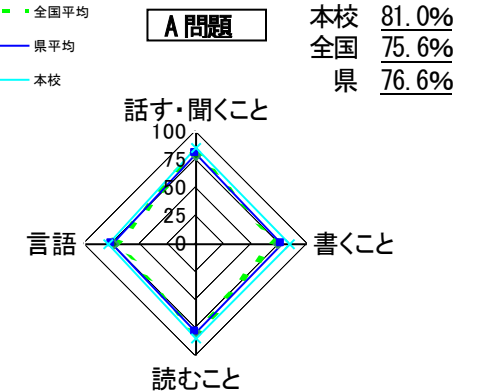
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	78.9%	80.7%	71.2%
県	69.7%	71.8%	60.6%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A問題	B問題
本校	81.0%	76.5%
全国	75.6%	66.5%
県	76.6%	67.9%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

◎ 段落相互の関係が把握できていない。(53.5%)

◇ 題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する問題において、文字の形や大きさ、配列などを考えて選択できていない。(39.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

◎ 説明的文章の読解において、各段落の要点を読み取らせ、段落相互の関係を把握させながら文章全体の要旨をまとめさせる学習を繰り返すことにより定着を図る。その際、意見や説明と具体例の区別を接続語の働きを中心に捉えさせ、教科書に線を引かせるなどの学習活動を通して定着を図る。

◇ 書写の時間を中心に、暑中見舞いや年賀状、お礼の手紙等の指導を通して、文字の形や大きさ、配列に注意して書かせることを意識させ定着を図る。

来年度の目標値

「基礎・基本」定着状況調査において、段落相互の把握に関わる問題の平均通過率を70%以上にする。
 全国学力・学習状況調査において、文字の形や大きさ、配列に関わる問題の平均正答率を50%以上にする。

中間検証①(H28.12)

中間検証②(H29.2~3)

最終検証(H29.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
説明的文章の読解において、各段落の要点を意見や説明と具体例の区別を接続語の働きを中心に捉えさせ、教科書に線を引かせるなどの学習活動を通して定着を図る。	1, 2年	2学期末テストにおいて、段落相互の関係に関わる問題の平均正答率	60%以上	62%	正答率は、1年生が61%であり、2年生が63%で目標値は達成しているが、引き続き継続指導を行う。	学年末テストにおいて、段落相互の関係に関わる問題の平均正答率	65%以上	64%	正答率は、1年生が60%で目標値は達成できなかったが、2年生は67%で目標値は達成している。引き続き継続指導を行う。	「基礎・基本」定着状況調査において、段落相互の把握に関する問題の平均通過率	70%以上	該当問題や類似問題がなく検証できない。
書写の時間を中心に、暑中見舞いや年賀状、お礼の手紙等の指導を通して、文字の形や大きさ、配列に注意して書かせることを意識させ定着を図る。	2, 3年	暑中見舞い・残暑見舞いを書くことのA評価	40%以上	48%	A評価の割合は、2年男子が22%、2年女子が60%、3年男子が36%、3年女子が78%で全体としては目標値を達成しているが、引き続き継続指導を行う。	年賀状やお礼の手紙を書くことのA評価	45%以上	56%	A評価の割合は、2年男子が32%、2年女子が73%、3年男子が39%、3年女子が79%で全体としては目標値を達成している。特に男子に引き続き継続指導を行う。	全国学力・学習状況調査において、文字の形や大きさ、配列に関する問題の平均正答率	50%以上	68.7%

平成28年度 指導方法等の改善計画について [数学]

廿日市市立四季が丘中学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 資料の活用において、情報を適切に選択することが不十分である。
- 関数であるかどうかや、既習のどの関数であるかの判断が不十分である。

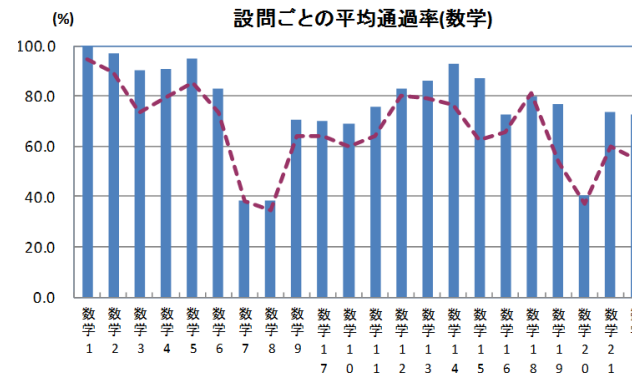
【取り組んだ事項】

- 資料の活用においては、身近な題材を通して、代表値の選択を行う演習に取り組む。
- グラフや式の特徴から既習の関数の見分けをする演習に取り組む。

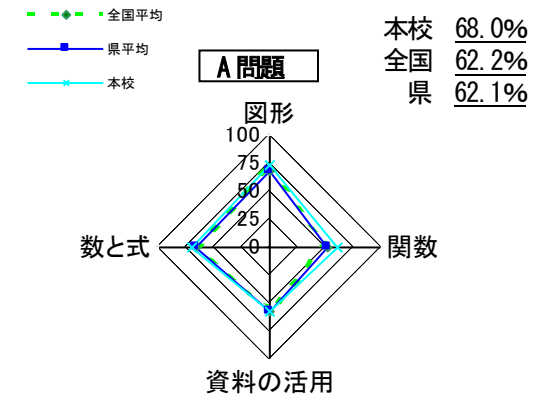
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	76.4%	78.7%	68.7%
県	66.8%	69.6%	57.3%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A問題	B問題
本校	68.0%	51.3%
全国	62.2%	44.1%
県	62.1%	44.8%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ 比較量は、(基準値) × (割合) で求められることの理解が十分でなく、数量の関係を、文字を用いた式で正しく表現することができない。
(2 (1)38.4%, (2)38.4%)
- ◇ グラフの傾きを事象に即して解釈することが十分できない。
(数学B 3 (2)23.9%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ 問題文の文脈をとらえて数量関係を線分図や表等で表したうえで、式をつかっていくことを、各学年で系統的に指導していく。
- ◇ 関数の単元における活用の問題場面等で、問題解決の方法として意識的にグラフを利用するよう促したり、グラフを読み取る問題及び問題提示の工夫をしたりすることにより、グラフのよさを実感させ、グラフの活用に十分慣れさせていく。

来年度の目標値

「基礎・基本」定着状況調査の文字式および方程式を作る問題で平均通過率を70%以上、全国学力・学習状況調査の関数領域のグラフの活用の問題で、平均正答率を65%以上にする。

中間検証①(H28.12)

中間検証②(H29.2~3)

最終検証(H29.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標 (方法)	中間検証①(H28.12)			中間検証②(H29.2~3)			最終検証(H29.8)		
			到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	到達目標値	実施後数値	
問題文の文脈をとらえて数量関係を線分図や表等で表したうえで、式をつかっていくことを、各学年で系統的に指導していく。	1, 2年	2学期期末テストにおいて類似問題の平均正答率	60%以上	61% (2年) 60% (1年)	2学年では変化の様子を捉えn番目を式で表す問題の正答率が61%、1学年では表を使い方程式を導く問題の正答率が60%であった。継続して指導していく。	65%以上	75% (2年) 72% (1年)	2学年では、変化の様子を捉えて多様な考えで式に表せるようになった。1学年では、表を使い、方程式を導く問題の正答率に伸びが見られた。グループ活動を工夫して質を高めていく。	「基礎・基本」定着状況調査の文字式および方程式を作る問題の平均通過率	70%以上	64.0% (2年)
関数の単元における活用の問題場面等で、問題解決の方法として意識的にグラフを利用するよう促したり、グラフを読み取る問題及び問題提示の工夫をしたりすることにより、グラフのよさを実感させ、グラフの活用に十分慣れさせていく。	2, 3年	2学期期末テストにおいて類似問題の平均正答率	55%以上	82% (2年) 60% (3年)	2学年では、正答率82%、3学年では60%であった。関数の単元だけでなくグラフを活用できる場面を意識的に設けていく。	60%以上	83% (2年) 62% (3年)	2学年では、グラフを活用して問題解決することがよくできていた。3学年では、グラフの交点の求め方についての理解が深まってきた。関数指導の中心にグラフを位置づける。	全国学力・学習状況調査の関数領域のグラフの活用の問題の平均正答率	65%以上	60.3% (3年)

平成28年度 指導方法等の改善計画について [理科]

廿日市市立四季が丘中学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 地学・物理領域で知識・理解が定着していない。
- 条件制御や推論などの科学的思考に課題が見られる。

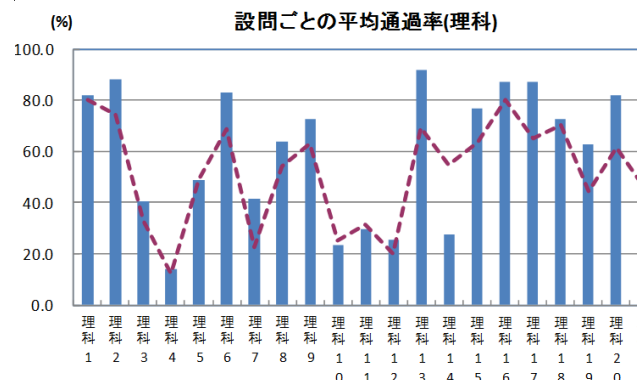
【取り組んだ事項】

- 小テストや単元末テストを実施し、知識・理解の定着をはかる。
- 日常生活の中にある課題を設定した探究活動に取り組ませる。

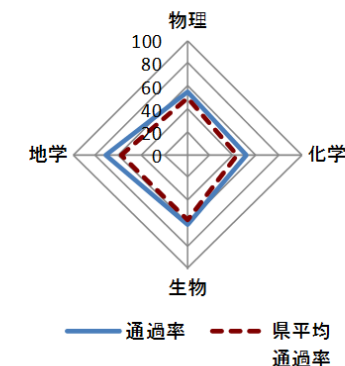
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	59.5%	61.1%	57.4%
県	51.8%	54.4%	48.3%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
本校		%
全国		%
県		%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



領域別平均通過率(理科)



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

- ◎ 物理分野の知識・技能の定着率が低い。(タイプI本校 45.5%)
特に作図技能の定着率が低い。
(力の表し方: 14.1%)
- ◎ 地学分野の科学的思考に課題が見られる。
(震源距離の推定: 44.2%, 地層のでき方の推測: 45.7%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ 物理分野の知識・技能の定着率を改善するために、この分野の小テストを小単元ごとに実施する。また、主に作図技能の定着率が低い。これを改善するために、作図問題に繰り返し取り組む。
- ◎ 地学分野において、科学的思考を深める探究活動を取り入れる。特に、資料から読み取ったり、与えられたデータを使って推測したりするような課題に取り組ませる。

来年度の目標値

「基礎・基本」定着状況調査において、タイプIの設問の平均通過率を65%以上、タイプIIの設問の平均通過率を60%以上にする。

中間検証①(H28.12)

中間検証②(H29.2~3)

最終検証(H29.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値
特に物理分野において確認問題に取り組ませる。	全学年	2学期期末テストにおいて知識・理解の問題の平均正答率	55%以上	68.4%	全学年平均は55%であった。引き続き演習問題や確認問題に定期的に取り組ませたい。	学年末テストにおいて知識・理解の問題の平均正答率	60%以上	59%	全学年平均は59%であった。2年生が54%で他学年よりも低かったため、小単元ごと小テストに取り組ませたい。	「基礎・基本」定着状況調査の知識・理解の問題の平均通過率	65%以上	75.3%
資料やデータを読み取り、推測するような課題に取り組ませる。	全学年	2学期期末テストにおいて科学的思考力の問題の平均正答率	55%以上	53.2%	全学年平均は53.2%であった。2学年の数値が他学年に比べて低いので、探究活動の機会をより増やし、考えを記述する場面を設定したい。	学年末テストにおいて科学的思考力の問題の平均正答率	60%以上	49%	全学年平均は49%であった。3学期は探究活動の回数が少なかったと思うので、単元をつらぬくような課題設定など工夫した課題を用意していきたい。	「基礎・基本」定着状況調査の科学的思考力の問題の平均通過率	60%以上	47.1%

平成28年度 指導方法等の改善計画について〔英語〕

廿日市市立四季が丘中学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 自分の考えや気持ちなどが伝わるように話す力が不十分である。
- 英文を読んで、情報をもとにその概要や要点を理解する力が不十分である。

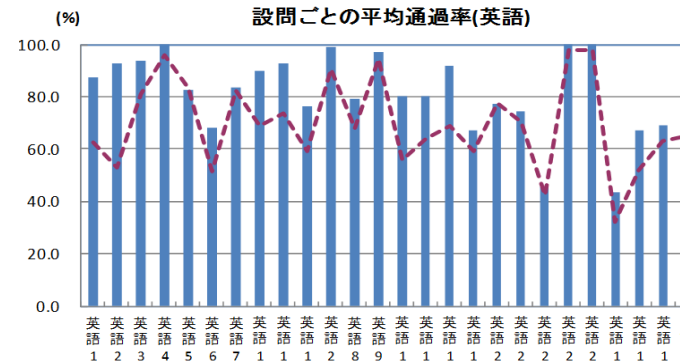
【取り組んだ事項】

- 帯学習等で、英語のQ&Aの活動をさせる。自分自身の答えが言えるようにする。
- まとまりのある英文を読んで内容や情報を整理してまとめたり、内容についての質問に答えさせる。

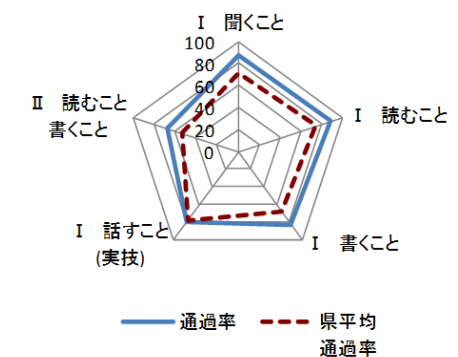
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率

	教科全体	タイプI	タイプII
本校	81.8%	84.5%	67.0%
県	69.6%	72.6%	53.0%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



領域別平均通過率(英語)



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

- ◎ 情報を基に、それに関連する質問を考え、英文を書く力が不十分である。
(本校通過率：43.3% 県平均：32.2%)
- ◎ 自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように話す力が不十分である。特に wh 疑問文の問いに対して適切に応答することに課題が見られる。
(本校通過率：45.4% 県平均：42.5%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ 帯学習等で、正しく疑問文を書く活動をさせる。特に、be 動詞と一般動詞の疑問文の作り方に注意させる。また、英文の読み取り後に、内容に関連する疑問文を作らせる活動を行う。
- ◎ 帯学習等で、Q&Aの活動をさせる。既習事項を用いて、時制に注意して答えさせる。英語で授業を行なうことを基本とし、様々な活動を通して、生徒の英語の発話量を増やす。

来年度の目標値

「基礎・基本」定着状況調査において、「適切な質問を考え英文を書く」の平均通過率を60%以上にする。
「基礎・基本」定着状況調査において、「自分の考えや気持ちなどが伝わるように話す」の wh 疑問文の問いに対する平均通過率を60%以上にする。

中間検証①(H28.12)

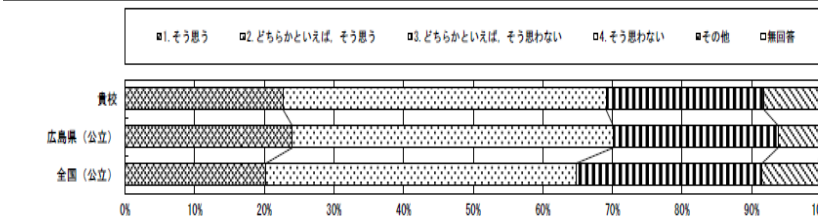
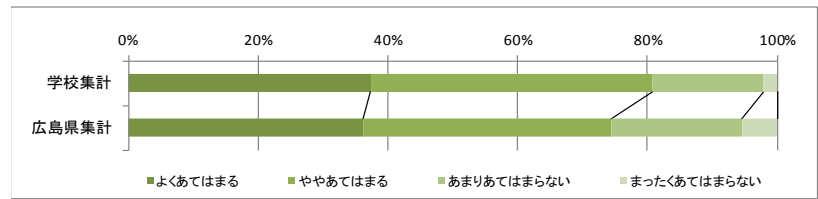
中間検証②(H29.2~3)

最終検証(H29.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
帯学習等で、正しく疑問文を書く活動をさせる。また、英文の読み取り後に、内容に関連する疑問文を作らせる活動を行う。	全学年	自作の検証問題の平均正答率	50%以上	47.4%	会話の流れを読み取り、適切な疑問文を作る問題について正答率47.4%。疑問文の語順を定着させる練習を行う。	自作の検証問題の平均正答率	55%以上	56.2%	疑問文の語順 be 動詞と一般動詞の文の区別を意識して疑問文を作らせる練習問題を実施する。	「基礎・基本」定着状況調査「適切な質問を考え英文を書く」の平均通過率	60%以上	64.0%
帯学習等で、Q&Aの活動をさせる。既習事項を用いて、時制に注意して答えさせる。英語で授業を行なうことを基本とし、様々な活動を通して、生徒の英語の発話量を増やす。	全学年	自作の検証問題(面接テスト)の平均正答率	50%以上	73%	帯学習として、絵を描写する等の練習をペアで行った。面接テストの結果は73%。進行形の be 動詞を抜かしてしまうミスが多いので、継続して指導していく	自作の検証問題(面接テスト)の平均正答率	55%以上	86.5%	be 動詞を抜かしてしまうミスは依然あるが、正答率は上がった。帯学習として取り組み、継続して練習していく。	「基礎・基本」定着状況調査「自分の考えや気持ちなどが伝わるように話す」の wh 疑問文の問いに対する平均通過率	60%以上	33.7%

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：質問紙調査）

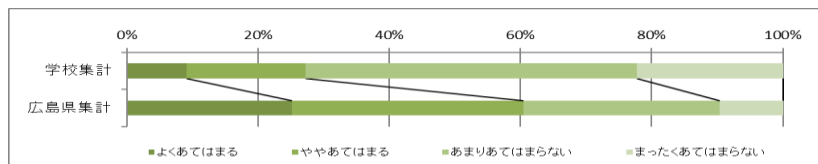
(1) 生活・学習



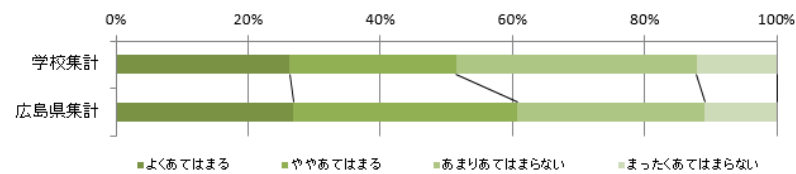
	生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。(よくあてはまる評価：37.4%)	<ul style="list-style-type: none"> 授業でペアやグループで話し合う場をさらに増やしていく。 話し合い後の自分の考えの変容を振り返らせる活動を行なう。また教師から、考えの広がりや深まりの評価も同時に行なう。 	2	40%	生徒アンケート調査	2学期末	39.1	+1.7
全国	「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」(そう思う評価：22.7%)		3	30%	生徒アンケート調査	2学期末	48.1	+25.4

(2) 教科

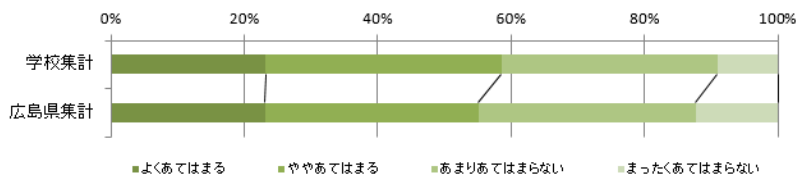
国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



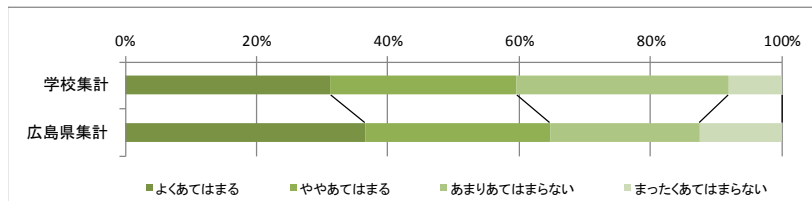
数学の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えています。



理科の授業で学んだことをふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



英語の授業では、分からない単語や熟語や自分が使いたい単語や熟語は、辞書を使って調べています。



	生徒の回答についての課題(現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本 「国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。」(よくあてはまる評価9.1%)	授業終了前には、本時の振り返りができるように「振り返りカード」の記入をさせる。	2	50%以上	生徒アンケート調査	2学期末	19%	+9.9
	全国 「国語の勉強は好きですか」(よくあてはまる評価44.5%)	生徒全員が授業に参加し、活躍できる場を設け、「分かる面白さ」を実感させる。	3	60%以上	生徒アンケート調査	2学期末	56.6%	+12.1
数学	基礎・基本 「数学の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えています。」(よくあてはまる評価26.3%)	単元末では身の回りや社会の中で使われている数学に目を向けさせ、既習事項が活用されていることを実感させる。	2	40%以上	生徒アンケート調査	2学期末	30.0%	+3.7
	全国 「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」(よくあてはまる評価49.1%)	数学の問題を解決していく上で用いられる「数学的な考え方」について折に触れて話をしていく。	3	60%以上	生徒アンケート調査	2学期末	54.7%	+5.6
理科	基礎・基本 「理科の授業で学んだことをふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。」(よくあてはまる評価23.2%)	身のまわりの科学的な事象を説明する課題の設定をする。	2	40%以上	生徒アンケート調査	2学期末	23.7%	+0.5
英語	基礎・基本 「英語の授業では、分からない単語や熟語や自分が使いたい単語や熟語は、辞書を使って調べています。」(よくあてはまる評価31.3%)	英文の読み取りや自己表現作文の際に積極的に辞書を使わせる。ワークシートに調べた単語等を書かせる欄を作る等工夫する。	2	45%以上	生徒アンケート調査	2学期末	33%	+1.7